



2 / 11

## PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 06-295567

(43)Date of publication of application : 21.10.1994

(51)Int.Cl. G11B 27/024  
G11B 20/02  
G11B 27/029  
G11B 33/02  
G11B 33/06

(21)Application number : 05-083231

(71)Applicant : MATSUSHITA ELECTRIC IND CO LTD

(22)Date of filing : 09.04.1993

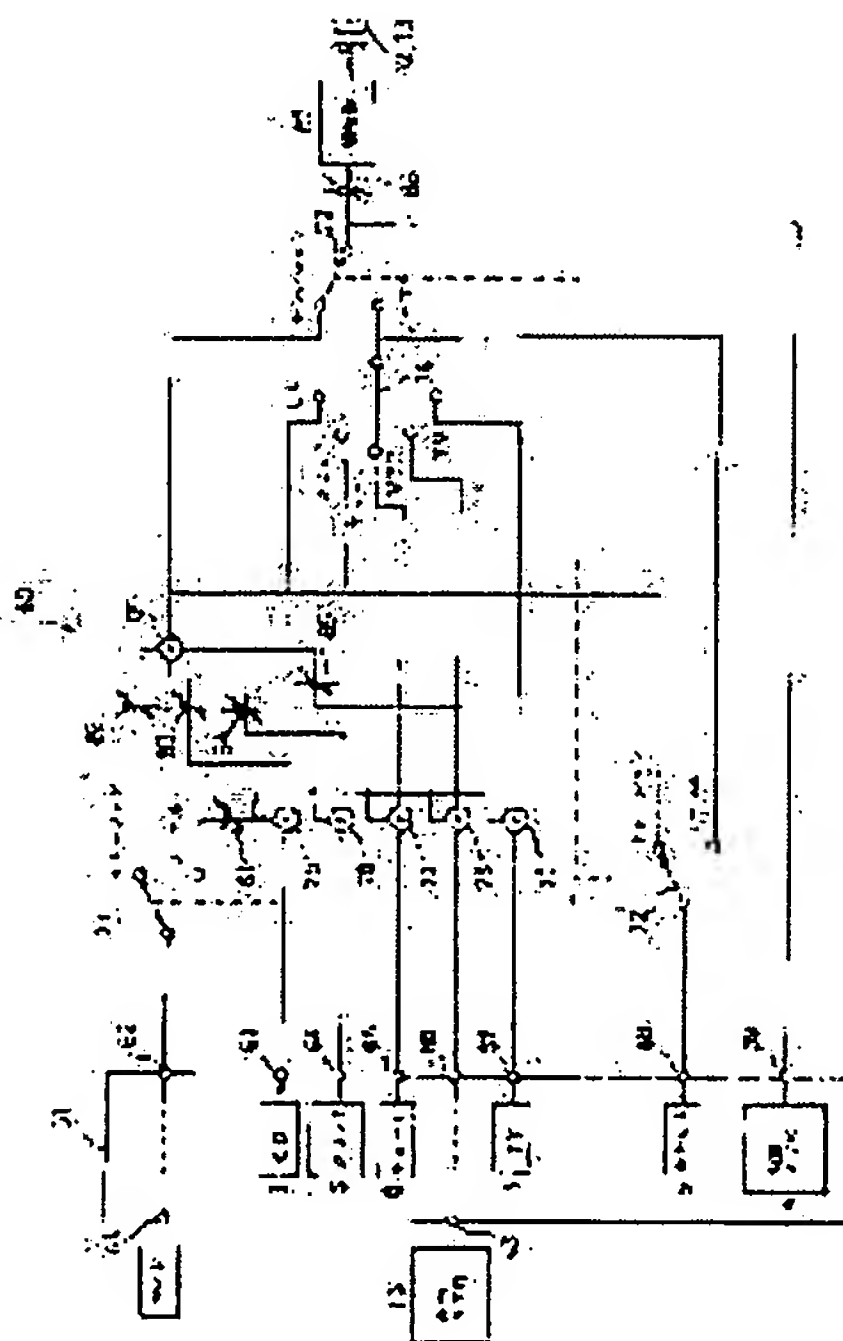
(72)Inventor : MORIMURA ATSUSHI  
SHIBAIKE SHIGETO

### (54) PORTABLE EDITING DEVICE

#### (57)Abstract:

PURPOSE: To facilitate speech editing operation by synthesizing the speech of a microphone with the speech signal of a CD or cassette selectively, and supplying and recording the mixed signal on a video tape as a speech input.

CONSTITUTION: A CD deck 3, a contained VTR 4, a cassette deck 5, and an external VTR 10 are placed in operation simultaneously and the speech signal from the microphone is added. Consequently, the signal generated by superposing the speech from the microphone on the speech from the CD deck 3, cassette deck 5, and VTR 10 is supplied to the contained VTR 4 and after-recorded on the speech track of a cassette tape. At this time, the speech from the microphone which is after-recorded is reproduced by speakers 12 and 13, so what kind of speech is recorded can be confirmed. The speech from the microphone and the speech signals from the CD deck 3, cassette deck 5, and VTR 10 have their levels adjusted by variable resistors 82-85 respectively and are mixed by a mixer 80 and sent to a VTR 4. Therefore, the mixing state, can be varied by adjusting the resistors 82-85. Then the deck 3, VTR 4, cassette deck 5, speakers 12 and 13, etc., are all integrated in one body.



(19)日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11)特許出願公開番号

特開平6-295567

(43)公開日 平成6年(1994)10月21日

(51)Int.Cl. <sup>5</sup>	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
G 1 1 B 27/024				
20/02	A	9294-5D		
27/029				
		8224-5D	G 1 1 B 27/ 02	C
		8224-5D	27/ 08	
審査請求 未請求 請求項の数5 OL (全 9 頁) 最終頁に続く				

(21)出願番号 特願平5-83231

(22)出願日 平成5年(1993)4月9日

(71)出願人 000005821

松下電器産業株式会社

大阪府門真市大字門真1006番地

(72)発明者 森村 淳

大阪府門真市大字門真1006番地 松下電器  
産業株式会社内

(72)発明者 芝池 成人

大阪府門真市大字門真1006番地 松下電器  
産業株式会社内

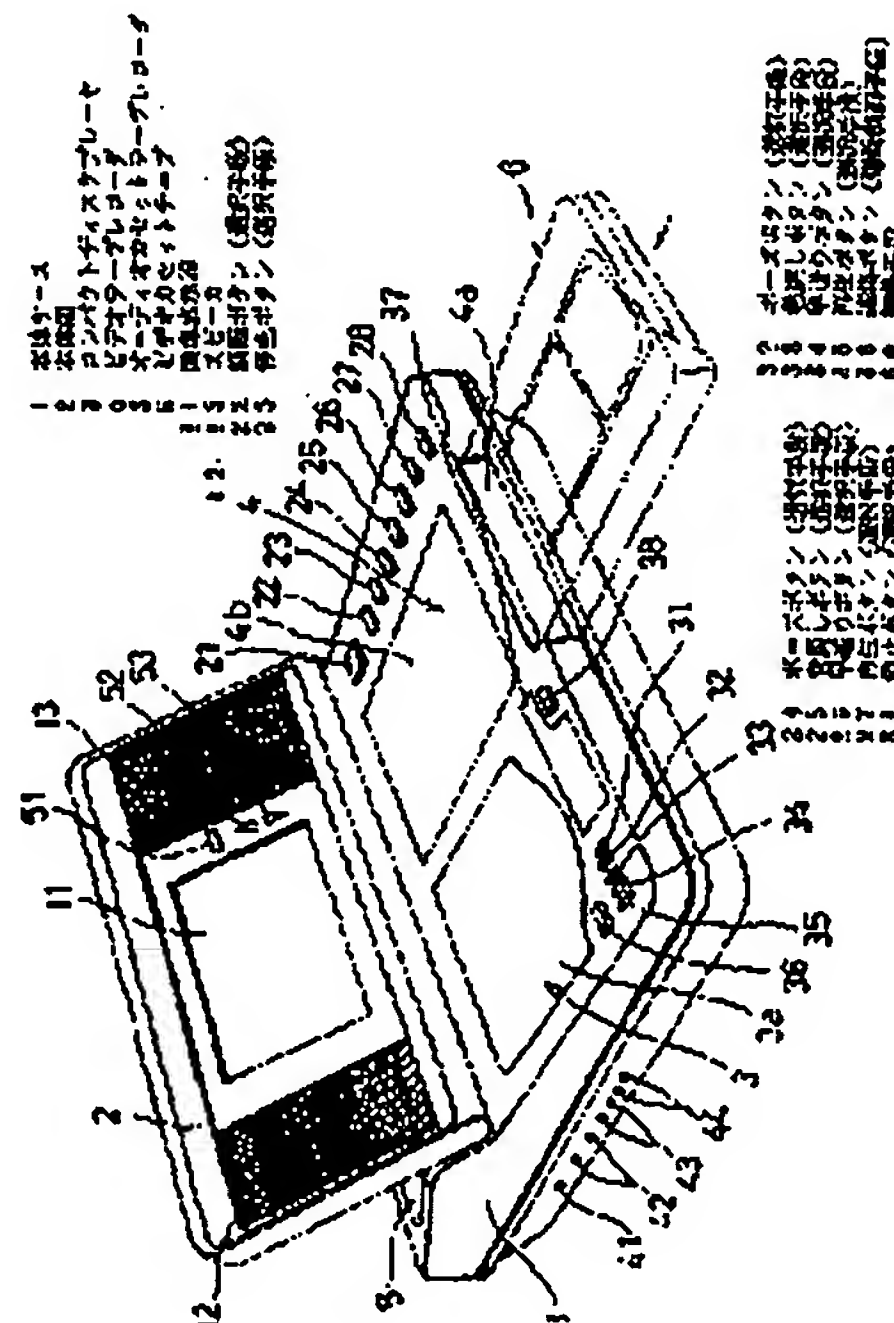
(74)代理人 弁理士 宮井 暎夫

(54)【発明の名称】 ポータブル編集装置

(57)【要約】

【目的】 ナレーション、BGM等の音声信号をミキシングしてビデオカセットテープに記録する編集作業を容易に行う。

【構成】 閉成状態で本体ケース1の上面を覆うように本体ケース1に本体蓋2をヒンジ結合している。本体ケース1には、ビデオテープレコーダ4、コンパクトディスクプレーヤ3およびオーディオカセットテープレコーダ5を設けている。また、本体蓋2の裏側には、画像表示器11およびスピーカ12、13を設けている。さらに、外付または内蔵のマイクロホン7を設け、ビデオテープレコーダ4、コンパクトディスクプレーヤ3およびオーディオカセットテープレコーダ5の動作をそれぞれ選択する選択手段を設け、編集時に各機器3～5を連動させる連動制御手段と、マイクロホンによる音声信号と各機器3、5の音声信号を選択的に合成してビデオテープレコーダ4に音声入力として供給して記録させる編集ボタン38とを設けている。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 本体ケースと、閉成状態で前記本体ケースの上面を覆うように前記本体ケースにヒンジ結合した本体蓋と、前記本体ケースに設けたビデオテープレコーダ、ディスクプレーヤおよびオーディオカセットテープレコーダと、前記本体蓋の裏側に設けた画像表示器およびスピーカと、外付または内蔵のマイクロホンと、前記ビデオテープレコーダ、ディスクプレーヤおよびオーディオカセットテープレコーダの動作をそれぞれ選択する選択手段と、編集時にビデオテープレコーダ、ディスクプレーヤおよびオーディオカセットテープレコーダを連動させる連動制御手段と、前記マイクロホンによる音声信号と前記ディスクプレーヤおよびオーディオカセットテープレコーダの音声信号を選択的に合成して前記ビデオテープレコーダに音声入力として供給して記録させる編集手段とを備えたポータブル編集装置。

【請求項2】 ビデオテープレコーダは本体ケースの前面にビデオカセットテープ挿入口を設けている請求項1記載のポータブル編集装置。

【請求項3】 ビデオテープレコーダは本体ケースの上面にポップアップ式のビデオカセットテープ挿入口を有し、本体蓋の閉成に連動して前記ビデオカセットテープ挿入口を降下させるようにした請求項1記載のポータブル編集装置。

【請求項4】 編集手段は、マイクロホンによる音声信号と前記ディスクプレーヤおよびオーディオカセットテープレコーダの音声信号の入力部にそれぞれ設けたレベル調整用の複数の可変抵抗器と、前記複数の可変抵抗器の各出力を加算する加算器とを有し、前記複数の可変抵抗器および前記加算器でマイクロホンによる音声信号とディスクプレーヤおよびオーディオカセットテープレコーダの音声信号を選択的に合成するようにしている請求項1記載のポータブル編集装置。

【請求項5】 連動制御手段は、ビデオテープレコーダ、ディスクプレーヤおよびオーディオカセットテープレコーダで駆動される各記録媒体の各編集開始位置、編集時間、編集の順番等からなる編集情報を1組または複数組記憶する記憶手段を有し、かつこの記憶手段から順次読み出した編集情報に従って各記録媒体について早送り、巻戻し、停止・ポーズ等を行って頭出しを行った後一斉にポーズ解除を行う編集制御手段を有している請求項1記載のポータブル編集装置。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【産業上の利用分野】この発明は、ビデオムービーで撮影した映像を記録したビデオカセットテープに、マイクロホンによる音声（ナレーション）にコンパクトディスクおよびオーディオカセット等に記録された音楽をバックグラウンドミュージック（以下、BGMと記す）として混合してアフタレコーディング（以下、アフレコと記

す）することができるポータブル編集装置に関するものである。

## 【0002】

【従来の技術】最近、据置型ビデオテープレコーダやビデオムービーがかなり普及しており、記録した素材を生かしながら、思い通りの表現へと変更していくビデオ編集の要望が高まっている。

## 【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、従来の編集システムでは、編集装置に対して、ビデオテープレコーダ、ビデオムービー、コンパクトディスクプレーヤ、オーディオカセットテープレコーダ等の各種機器を複雑に配線することが必要であり、編集作業が容易でなかった。

【0004】なお、先行技術として、特願平3-165394号公報には、折りたたみ可能な蓋体の裏面に平面スクリーンを有するラップトップ型のビデオオーディオ装置が開示されている。このビデオオーディオ装置は、ビデオテープレコーダとテレビジョン受像機とコンパクトディスクプレーヤとラジオ受信機とを一体化したものであるが、各種音源の音声を混合してビデオカセットテープにアフレコ等の編集作業を行うことはできなかった。

【0005】この発明は上記問題に鑑み、ナレーション、BGM等の音声信号をミキシングしてビデオカセットテープに記録するという編集作業を容易に行うことができるポータブル編集装置を提供することを目的とする。

## 【0006】

【課題を解決するための手段】この発明のポータブル編集装置は、本体ケースと、閉成状態で本体ケースの上面を覆うように本体ケースにヒンジ結合した本体蓋とを備えている。本体ケースには、ビデオテープレコーダ、ディスクプレーヤおよびオーディオカセットテープレコーダを設けている。また、本体蓋の裏側には、画像表示器およびスピーカを設けている。さらに、外付または内蔵のマイクロホンと、ビデオテープレコーダ、ディスクプレーヤおよびオーディオカセットテープレコーダの動作をそれぞれ選択する選択手段と、編集時にビデオテープレコーダ、ディスクプレーヤおよびオーディオカセットテープレコーダを連動させる連動制御手段と、マイクロホンによる音声信号とディスクプレーヤおよびオーディオカセットテープレコーダの音声信号を選択的に合成してビデオテープレコーダに音声入力として供給して記録させる編集手段とを設けている。

【0007】ビデオテープレコーダは、本体ケースの前面にビデオカセットテープ挿入口を有する構造、または本体ケースの上面にポップアップ式のビデオカセットテープ挿入口を有する構成であり、後者の場合には、本体蓋の閉成に連動してビデオカセットテープ挿入口を降下



させるようにしている。また、編集手段は、マイクロホンによる音声信号とディスクプレーヤおよびオーディオカセットテープレコーダの音声信号の入力部にそれぞれ設けたレベル調整用の複数の可変抵抗器と、複数の可変抵抗器の各出力を加算する加算器とを有し、複数の可変抵抗器および加算器でマイクロホンによる音声信号とディスクプレーヤおよびオーディオカセットテープレコーダの音声信号を選択的に合成するようにしている。

【0008】追跡制御手段は、単なるポーズ動作の一斉解除の機能を有するものでもよいが、ビデオテープレコーダ、ディスクプレーヤおよびオーディオカセットテープレコーダで駆動される各記録媒体の各編集開始位置、編集時間、編集の順番等からなる編集情報を1組または複数組記憶する記憶手段を有し、かつこの記憶手段から順次読み出した編集情報に従って各記録媒体について早送り、巻戻し、停止・ポーズ等を行って頭出しを行った後一斉にポーズ解除を行う編集制御手段を有する構成とすることも可能である。

【0009】

【作用】この発明の構成によれば、編集時にビデオテープレコーダ、ディスクプレーヤおよびオーディオカセットテープレコーダが連動して、マイクロホンによる音声信号とディスクプレーヤおよびオーディオカセットテープレコーダの音声信号とが選択的に合成されてビデオテープレコーダに音声入力として供給されビデオカセットテープに記録される。

【0010】また、ビデオテープレコーダが本体ケースの前面にビデオカセットテープ挿入口を有する場合、本体蓋の開閉の際にビデオカセットテープ挿入口が邪魔になることはない。また、ビデオテープレコーダが本体ケースの上面にポップアップ式のビデオカセットテープ挿入口を有する場合には、本体蓋の開成に連動してビデオカセットテープ挿入口を降下させることにより、ポップアップ式のビデオカセットテープ挿入口が本体蓋の画像表示器に当たって画像表示器を傷つけることがなく、さらに本体蓋の開閉の際にビデオカセットテープ挿入口が邪魔になることはない。

【0011】また、レベル調整用の複数の可変抵抗器でマイクロホンによる音声信号とディスクプレーヤおよびオーディオカセットテープレコーダの音声信号とが組み付けられた加算器で加算されることになる。また、記憶手段にてビデオテープレコーダ、ディスクプレーヤおよびオーディオカセットテープレコーダで駆動される各記録媒体の各編集開始位置、編集時間、編集の順番等からなる編集情報を1組または複数組予め記憶させておき、編集制御手段にて記憶手段から順次読み出した編集情報に従って各記録媒体について早送り、巻戻し、停止・ポーズ等を行って頭出しを行った後一斉にポーズ解除を行うことが可能となる。

【0012】

【実施例】以下、この発明の一実施例のラップトップ型のポータブル編集装置を図面を参照しながら説明する。図1はこの実施例のポータブル編集装置の本体蓋開成状態の斜視図を示し、図2に同じくポータブル編集装置の本体蓋閉成状態の側面図を示している。このポータブル編集装置は、図1および図2に示すように、本体ケース1に対し、閉成状態で本体ケース1の上面前部を覆うように本体ケース1の上面中間部に本体蓋2をヒンジ結合している。

【0013】本体ケース1には、上面前部左側（本体蓋2のヒンジ結合部より前方位位置）にコンパクトディスクプレーヤ3を配置し、上面前部右側（本体蓋2のヒンジ結合部より前方位位置）にビデオテープレコーダ4を配置し、上面後部（本体蓋2のヒンジ結合部より後方位位置）にオーディオカセットテープレコーダ（いわゆるダブルカセット型で、一方は録音・再生型、他方は再生専用型）5を配置している。また、図示はしていないが、テレビジョンチューナとラジオチューナとが内蔵されている。

【0014】ビデオテープレコーダ4は、本体ケース1の前面にビデオカセットテープ挿入口4aがあり、本体ケース1の上面は部分的に透明（符号4bを付した部分）になっていて、ビデオカセットテープ6の巻き取り状態を目視できるようになっている。なお、ビデオテープレコーダ4には、図4の構造とは異なるが、本体ケースの上面にビデオカセットテープ挿入口があり、ビデオカセットテープ着脱時にビデオカセットテープ挿入口がポップアップする構成としている場合もある。この場合は、本体蓋の開成と連動して、ビデオカセットテープ挿入口が下降する構造としている。

【0015】コンパクトディスクプレーヤ3は、本体ケース1の上面からディスクを挿入する構造であり、3aは押さえ蓋である。オーディオカセットテープレコーダ5は、本体ケース1の上面からカセットを挿入する構造である。つぎに、本体蓋2は、裏面の略中央部に例えばカラー液晶パネル等からなる画像表示器11が設けられ、その両側にそれぞれスピーカ12、13が配設されている。画像表示器11は、テレビジョン画像あるいはビデオテープレコーダ画像を表示するとともに、テレビジョンあるいはラジオの選局状態や現在時刻等を単独あるいは、テレビジョン画像やビデオテープレコーダ画像に重ねてデジタル表示する。その表示の態様としては、例えば「TV 6」、「FM80.2MHz」、「AM1008kHz」、「PM10:00」のようなものが例としてあげられる。スピーカ12、13は、テレビジョン音声、ラジオ音声、ビデオテープレコーダ音声等の各種音声を再生する。

【0016】本体ケース1の上面のビデオテープレコーダ4の配設位置近傍には、電源ボタン21、録画ボタン22、停止ボタン23、ポーズボタン24、巻戻しボタ

ン25、早送りボタン26、再生ボタン27、イジェクトボタン28が設けられている。また、本体ケース1の上面のコンパクトディスクプレーヤ3の配設位置近傍には、停止ボタン31、ポーズボタン32、巻戻しボタン33、早送りボタン34、再生ボタン35、イジェクトボタン36が設けられている。以上の各種ボタンが、ビデオテープレコーダ4、コンパクトディスクプレーヤ3およびオーディオカセットテープレコーダ5の動作をそれぞれ選択する選択手段を構成している。

【0017】さらに開閉パネル37と編集ボタン38が設けられている。この編集ボタン38は、編集作業時に使用するもので、コンパクトディスクプレーヤ3、ビデオテープレコーダ4およびオーディオカセットテープレコーダ5をそれぞれポーズ状態として、編集ボタン38を押し操作すると、コンパクトディスクプレーヤ3、ビデオテープレコーダ4およびオーディオカセットテープレコーダ5は一斉にポーズ状態が解除されて動きだし、編集ボタン38を再度押し操作するとコンパクトディスクプレーヤ3、ビデオテープレコーダ4およびオーディオカセットテープレコーダ5は一斉にポーズ状態に復帰することになる。この編集ボタン38が、編集時にビデオテープレコーダ4、コンパクトディスクプレーヤ3およびオーディオカセットテープレコーダ5を連動させる連動制御手段を構成している。

【0018】なお、外付ビデオテープレコーダも編集に使用するとき、編集ボタン38には外付ビデオテープレコーダは連動しないので、編集ボタン38の操作と同時に外付ビデオテープレコーダのポーズ解除操作を行うことが必要である。外付ビデオテープレコーダのポーズ解除操作を編集ボタン38の操作と連動させるには、外付ビデオテープレコーダに赤外線リモコン受信部が設けられているので、例えば、赤外線発信部を本体ケース1の外面に設け、編集ボタン38の操作に連動して赤外線

でポーズ信号およびポーズ解除信号を外付ビデオテープレコーダに対して発信すればよい。

【0019】また、開閉パネル37の下方には、セレクト等編集用の各種調整ボタンがあり、編集作業時に、適宜開閉パネル37をあけて操作する。本体ケース1の側面には、マイクロホン（図示せず）を接続するためのマイクロホン端子41と、外部のビデオテープレコーダ（図示せず）から映像信号の入力端子42と映像信号の出力端子43と、音声信号の入力端子44および出力端子45が設けられている。

【0020】本体蓋2には、AM/FM/TV/時刻の切替ボタン51と、チューニング/チャンネルボタン52、53が設けられている。つぎに、コンパクトディスクプレーヤ3およびオーディオカセットテープレコーダ5等の音声信号（BGM）を、外付のマイクロホン（本体ケースに内蔵していてもよい）による音声信号（ナレーション）と混合してビデオテープレコーダ4へ供給し

てビデオカセットテープ6の音声トラックへ、例えばBGM付のナレーションとして記録（アフレコ）させるための編集手段60について、図3を参照しながら説明する。

【0021】図3はこの実施例の音声系統の概略回路図（1チャンネルのみ図示）を示している。図3において、符号61で示すブロックは、コンパクトディスクプレーヤ3、ビデオテープレコーダ4、オーディオカセットテープレコーダ5、テレビジョンチューナ7およびラジオチューナ8を一体的に示したものであり、62はマイクロホン出力端子、63はコンパクトディスクプレーヤ出力端子、64はオーディオカセットテープレコーダ出力端子、65はラジオチューナ出力端子、66は外部ビデオテープレコーダ音声出力端子、67はテレビジョンチューナ出力端子、68はオーディオカセットテープレコーダ入力端子、69は内蔵のビデオテープレコーダ4の音声入力端子である。

【0022】71、72、73は連動する切替スイッチで、アフレコ用のナレーション作成モードと通常再生（ノーマル）モードとを切り替える。74は通常再生時における再生音源を切り替えるスイッチである。75ないし79はそれぞれカラオケ用の混合器、80はナレーション用の混合器である。81はカラオケ用の可変抵抗器、82ないし85はそれぞれナレーション用の可変抵抗器、86は再生音調整用の可変抵抗器である。87は再生用の電力増幅器であり、本体ケース1に内蔵されている。

【0023】つぎに、このポータブル編集装置の動作について説明する。最初に、予め録画したビデオカセットテープにアフレコ動作によってナレーションを入れる編集動作について説明する。まず、ビデオテープレコーダ4にナレーションを入れる対象となるビデオカセットテープ6を装着し、コンパクトディスクプレーヤ3、オーディオカセットテープレコーダ5および外部のビデオテープレコーダ10にナレーション時のBGMとなる音楽が入ったコンパクトディスク、オーディオカセットテープおよびビデオカセットテープ等を適宜装着する。また、切替スイッチ71、72、73をナレーション作成側に切り替える。

【0024】そして、コンパクトディスクプレーヤ3、オーディオカセットテープレコーダ5および外部接続されるビデオテープレコーダ10を再生モードでポーズ状態とし、内蔵のビデオテープレコーダ4をアフレコモードでポーズ状態とする。その後、編集ボタン38を押し操作して、コンパクトディスクプレーヤ3、ビデオテープレコーダ4およびオーディオカセットテープレコーダ5を一斉に動作せるとともに、マイクロホン9より音声信号を付加する。なお、外部のビデオテープレコーダ10については別にポーズを解除することが必要である。この結果、コンパクトディスクプレーヤ3、オーディオ



カセットテープレコーダ5および外部のビデオテープレコーダ10からの音声(BGM)にマイクロホン9から音声(ナレーション)を重ねたものが、ビデオテープレコーダ4に供給され、ビデオテープレコーダ4において、ビデオカセットテープの音声トラックにアフレコされることになる。このときに、アフレコされるナレーションは、スピーカ12, 13で再生されるので、どのような音声(ナレーション)が記録されるのかを確認することができる。

【0025】マイクロホン9による音声(ナレーション)とコンパクトディスクプレーヤ3、オーディオカセットテープレコーダ5および外部のビデオテープレコーダ10からの音声信号は、それぞれ可変抵抗器82~85でレベル調整した後、混合器80で混合されてビデオテープレコーダ4へ送られるので、可変抵抗器82~85の調整で、混合状態を任意に変更することができる。また、例えばミキシングの際に、コンパクトディスクプレーヤ3、オーディオカセットテープレコーダ5および外部のビデオテープレコーダ10の全てを使用する必要はなく、何れか1つまたは複数のみ使用してミキシングを行ってもよい。さらに、マイクロホン9による音声のみをビデオテープレコーダ4へ送って記録させることも可能である。

【0026】また、ナレーションを生でビデオカセットテープに記録する必要はなく、いったんオーディオカセットテープに記録し、オーディオカセットテープに記録したナレーションを後で音楽と混合しながらビデオカセットテープに記録することもできる。このときは、ビデオカセットテープには、FM記録領域(ビデオ信号と同じトラック内)に記録することが可能である。

【0027】また、ナレーションと音楽とを混合したものをオーディオカセットテープにいったん記録し、内容を確認してからビデオテープレコーダ4にてビデオカセットテープに記録することもできる。また、音声および音楽の混合の際に、フェードインおよびフェードアウトを行うようにしてもよい。

【0028】なお、CD、VTR、コンパクトカセットには、記録された信号の動作時間や記録位置(テープのカウンタなど)を示す情報が一般的に用いられている。したがって、このポータブル編集装置においても、編集操作を行うときには、これらの記録位置や動作時間を示す情報を用い、それぞれの記録媒体の音声や映像信号の必要な部分を合成するようにすると、自動で編集が可能となる。

【0029】自動の編集操作の場合、CD、VTR、コンパクトカセット等の各構成要素の記録媒体の始めと終わりの位置や時間等の編集情報を、編集装置のシステムマイコンの記憶手段に記録する。また、編集の位置が複数の場合には、編集の順番を示す情報を併せてシステムマイコンの記憶手段に記録する。このようにして、システムマイコンの編集制御手段で記憶

手段から読み出した編集の順番と編集の位置や時間を示す編集情報を元に、CD、VTR、コンパクトカセット等の各構成要素の記録媒体を操作(早送り、巻戻し、停止・ポーズ等)を順次行うことで、頭出しを行った後一斉にポーズ解除を行う編集操作を自動で行うことが可能となる。

【0030】さらに、各信号の信号レベルをシステムマイコンに記録しておくことで、音声や映像のフェードイン、フェードアウトを行わせることも可能である。つぎに、通常再生を行う場合について説明する。この場合、切替スイッチ71, 72, 73をノーマル側に切り替えると、編集装置としてではなく、コンパクトディスクプレーヤ、オーディオカセットテープレコーダ、ラジオチューナ、テレビジョンチューナ等の再生装置として使用することができる。つまり、このようにすると、コンパクトディスクプレーヤ3、オーディオカセットテープレコーダ5、ラジオチューナ8、テレビジョンチューナ7、外部ビデオテープレコーダ10の音声(ナレーション)を切替スイッチ74を介して電力増幅器87および内蔵のビデオテープレコーダ4へ送ることができ、それらの音声を選択的に再生したり、あるいはビデオテープレコーダ4に記録させることが可能となる。コンパクトディスクプレーヤ3、オーディオカセットテープレコーダ5およびビデオテープレコーダ10については、再生状態にすることが必要であるのは当然である。

【0031】また、通常再生時において、マイクロホン9を使用することで、ポータブル編集装置をカラオケ装置として使用することもできる。つまり、コンパクトディスクプレーヤ3、オーディオカセットテープレコーダ5、ラジオチューナ、テレビジョンチューナ、外部のビデオテープレコーダ等を再生状態あるいは動作状態として、それらから出力される伴奏にマイクロホンの音声(ナレーション)を混合して、スピーカ12, 13で再生することができ、カラオケの練習をすることができる。このとき、マイクロホン9の音量は可変抵抗器81で調整できる。

【0032】なお、画像については、図示はしていないが、テレビジョンチューナ7あるいは外部ビデオテープレコーダ10が選択されたときは、当然連動して画像表示器11にテレビジョン画像あるいはビデオテープレコーダ画像が表示されることになる。また、コンパクトディスクプレーヤ3をCD-I(静止画)やCD-Gの再生が可能なものとするれば、カラオケ使用時に例えば歌詞等を画像表示器11に表示させることができ、画面上の歌詞等をみながらカラオケの練習を行うことができる。

【0033】また、この実施例のポータブル編集装置に外部ビデオテープレコーダまたはビデオムービーを接続した場合、図示はしていないが、画像についても種々の編集を行うことが可能である。編集の例としては、つなぎ編集、インサート編集、タイトル入れ、オーバーラップ、ワイプ、エフェクト等、種々のものが考えられる。

## 【0034】

【発明の効果】この発明のポータブル編集装置によれば、編集時にビデオテープレコーダ、コンパクトディスクプレーヤおよびオーディオカセットテープレコーダが連動して、マイクロホンによる音声とコンパクトディスクプレーヤおよびオーディオカセットテープレコーダの音声信号とを選択的に合成してビデオテープレコーダに音声入力として供給しビデオカセットテープに記録することができ、コンパクトディスクプレーヤやオーディオカセットテープレコーダ等の他の機器を接続することなく、容易に音声の編集を行うことができる。

【0035】また、ビデオテープレコーダが本体ケースの前面にビデオカセットテープ挿入口を有する場合、本体蓋の開閉の際にビデオカセットテープ挿入口が邪魔になることはない。また、ビデオテープレコーダが本体ケースの上面にポップアップ式のビデオカセットテープ挿入口を有する場合では、本体蓋の開成に連動してビデオカセットテープ挿入口を降下させることにより、ポップアップ式のビデオカセットテープ挿入口が本体蓋の画像表示器に当たって画像表示器を傷つけるのを防止することができ、本体蓋の開閉の際にビデオカセットテープ挿入口が邪魔になることはない。

【0036】また、レベル調整用の複数の可変抵抗器でマイクロホンによる音声信号とディスクプレーヤおよびオーディオカセットテープレコーダの音声信号とを重み付けして加算器で加算することができ、各音声信号を任意のレベルで混合することが可能である。また、記憶手段にてビデオテープレコーダ、ディスクプレーヤおよびオーディオカセットテープレコーダで駆動される各記録媒体の各編集開始位置、編集時間、編集の順番等からなる編集情報を1組または複数組予め記憶させておき、編集制御手段にて記憶手段から順次読み出した編集情報に従って各記録媒体について早送り、巻戻し、停止・ポーズ等を行って頭出しを行った後一斉にポーズ解除を行う\*

\*ことが可能となり、予め編集情報をセットすることにより、複雑な編集作業を自動的に行うことが可能となる。

## 【図面の簡単な説明】

【図1】この発明の一実施例のポータブル編集装置の構成を示す斜視図である。

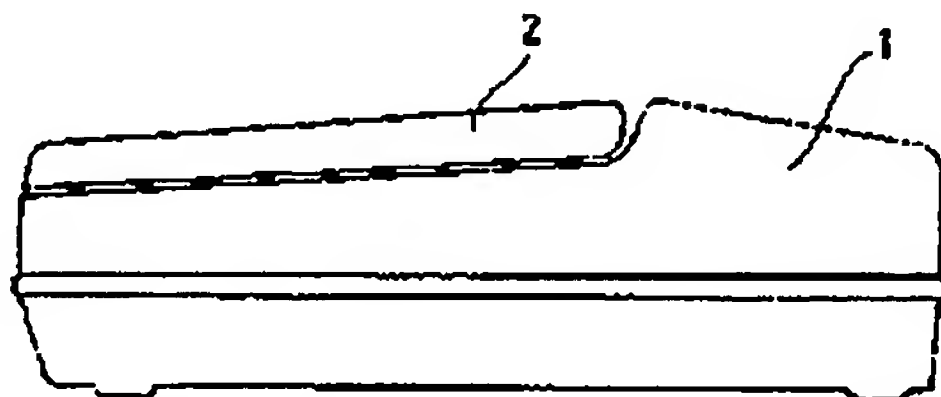
【図2】同じくポータブル編集装置の構成を示す側面図である。

【図3】同じく編集手段を示す概略回路図である。

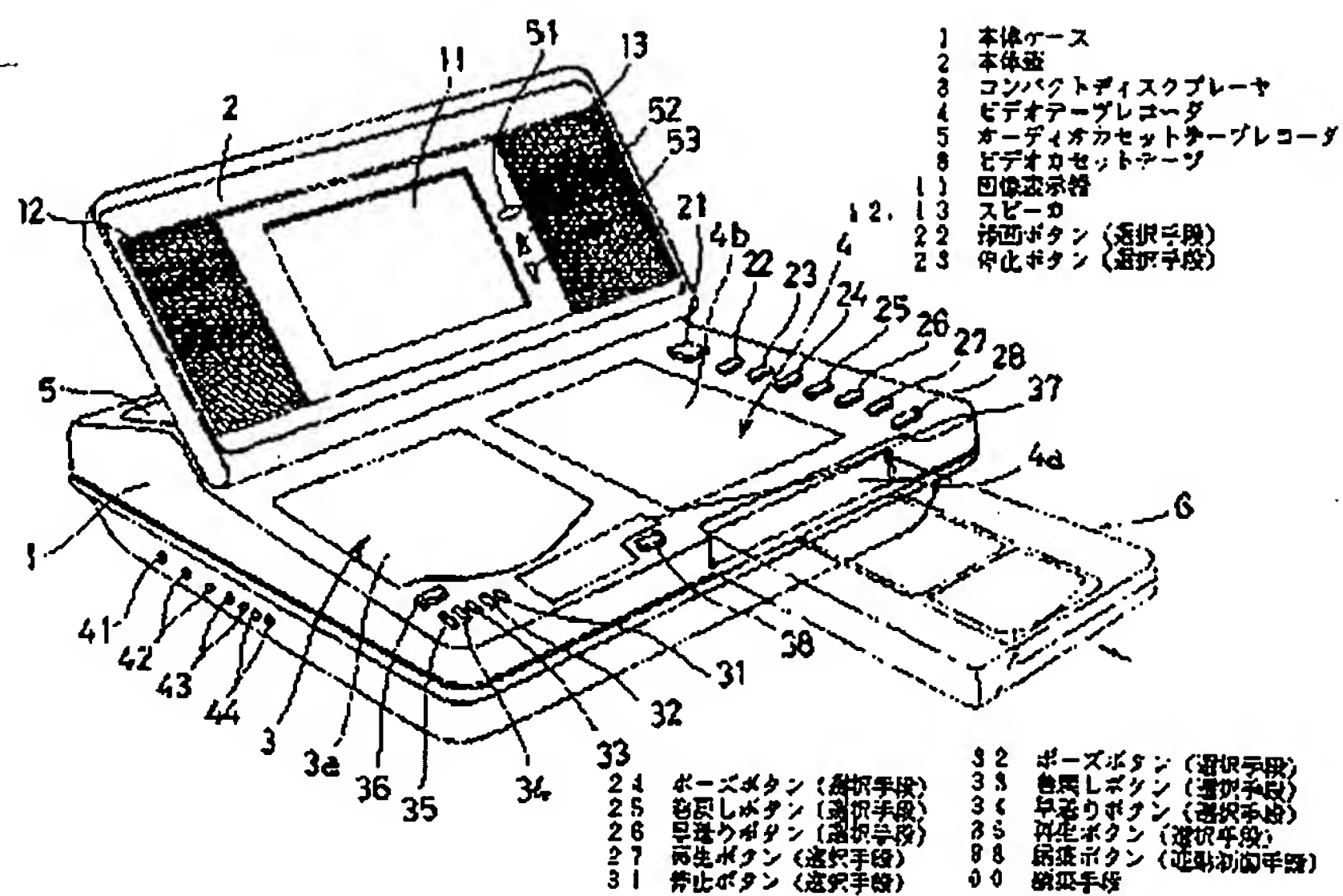
## 【符号の説明】

- |       |                  |
|-------|------------------|
| 1     | 本体ケース            |
| 2     | 本体蓋              |
| 3     | コンパクトディスクプレーヤ    |
| 4     | ビデオテープレコーダ       |
| 5     | オーディオカセットテープレコーダ |
| 6     | ビデオカセットテープ       |
| 11    | 画像表示器            |
| 12、13 | スピーカ             |
| 21    | 電源ボタン            |
| 22    | 録画ボタン（選択手段）      |
| 23    | 停止ボタン（選択手段）      |
| 24    | ポーズボタン（選択手段）     |
| 25    | 巻戻しボタン（選択手段）     |
| 26    | 早送りボタン（選択手段）     |
| 27    | 再生ボタン（選択手段）      |
| 28    | イジェクトボタン         |
| 31    | 停止ボタン（選択手段）      |
| 32    | ポーズボタン（選択手段）     |
| 33    | 巻戻しボタン（選択手段）     |
| 34    | 早送りボタン（選択手段）     |
| 35    | 再生ボタン（選択手段）      |
| 36    | イジェクトボタン         |
| 38    | 編集ボタン（連動制御手段）    |
| 60    | 編集手段             |

【図2】

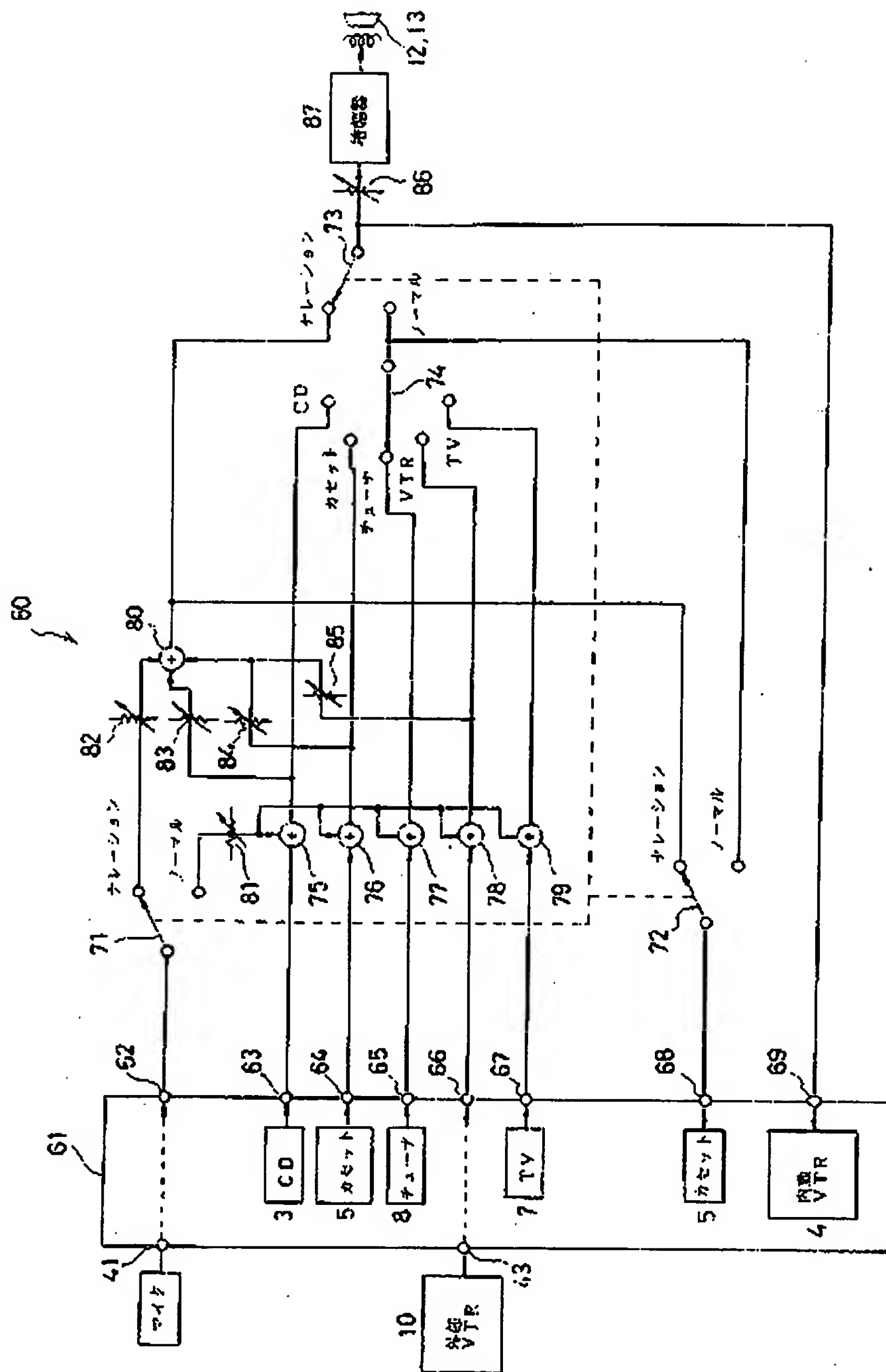


【図1】





【図3】



フロントページの続き

(51)Int.Cl.

G11B 33/02

33/06

識別記号

片内整理番号

F I

技術表示箇所

B

E

(9)

特開平6-295567

M